

特集

学校教育が変えられる

趣旨／変容する学校

安倍首相は2020年2月28日(金)、新型コロナウイルスの感染拡大防止を口実に、全国の小・中・高校と特別支援学校に臨時休校を要請した。それを受けて、翌週からほとんどの学校が休校に入った。

長引く休校期間に、学校の機能や役割についてあらためて考えさせられた人も多いのではないか。

いま、学校教育は大きく変えられようとしている。

「グローバル教育」の名のもとに小学校に英語教育が導入され、プログラミング教育やタブレット使用によるオンライン授業など、一昔前とは大きく様変わりしている。

「SDGs（持続可能な開発目標）」、「ESD（持続可能な開発のための教育）」、「ICT教育」、「ギガスクール」、「ユネスコスクール」、「Society5.0」等の、耳慣れないことばも聞こえてくる。

教育現場では文部科学省の意向よりも、経済産業省の思惑のほうが強くと反映されている。実用面が重

視され、教育の本来の目的である人格の完成よりも、財界の求める人材の育成に重点が置かれていると研究者は指摘している。

急激に変容する学校で、子どもたちはどのように育っていくのだろうか。

早期の英語教育や新しい教育機器の使用で、学力格差が拡大するおそれはないのか。

また、教師たちは生き生きと働いていけるのだろうか。

めまぐるしく変わる学校教育への対応で、多忙化に一層、拍車がかかるおそれはないのか。

学校は子どもも教師も、思い切り喜怒哀楽を発散できる場所であってほしい。

のびのびと心身を開放できる場所であってほしい。

ここでは変容する学校のすがたを報告するとともに、学校の機能と役割について、いま一度、考えてみたい。

(編集部)